ウクライナのたたかう医療労働者たち　（１）

医療運動「ニーナのように」

ウクライナでは 2015 年のミンスク合意以降、医療改革＝リストラが進められました。2020 年初頭にはコロナが拡大し、多くの医療従事者らも犠牲に。医療改悪にコロナが加わり、厳しい状況の中で看護師や医師、救急隊員らが声を上げました。厳しいコロナの状況の中で SNS で声を上げたキエフ州の看護師ニーナ・コズロフスカさんの名前をつけた医療運動「ニーナのように」を取り上げた «СПІЛЬНЕ» （スピリニェ common）の記事を紹介します。コロナの直前の 2019 年 12 月 19 日、この「ニーナのように」が初めて呼びかけたアクション「医療従事者は奴隷ではない！」の様子はコチラ→ https://x.gd/9FSbD

ウクライナの左派グループ「社会運動」のサイトでは、昨年 2023 年７月 27 日の「医師の日」に合わせて医療運動「ニーナのように」が呼びかけた保健省申し入れ行動の様子を伝えています。以下、リード部分だけ訳してます。

> 「医療従事者の日：保健省は業界の問題の真実を無視する」（2023 年７月 23 日）
>
> 2023 年７月 27 日、ウクライナで初めて「新しいスタイル」で医師の日が祝われた。一方、ウクライナ保健省の指導者たちは、旧態依然としたやり方で働くことへのコミットメントを示した。医療運動「ニーナのように」の呼びかけで、ザポリージャ、キーウ、リヴィウ、ポルタヴァ、スームィ、チェルニヒフから数十人の医師と看護師が首都キーウに集まり、医療施設の問題を当局に報告した。しかし事前にアポイントメントをとっていなかったことを理由に、省庁舎に入ることを拒否された。…以下、原文と写真はこちらの「社会運動」のサイトから。https://onl.bz/6r1zYxS

医療運動「ニーナのように」のサイトでも「医師の日」の保健省行動をたくさんの写真入りで伝えています。

- 医師の日の“お祝い”に集まった全国の「ニーナ」たち
  （2023 年７月 23 日）https://x.gd/tLUSe

2015 年のミンスク合意以降、一定程度の停戦が行われたことを契機に、IMF の融資も再開された。

> 「IMF は、2015 年からウクライナに対し４年間に亘って 175 億ドルの拡大信用供与措置（EFF）を適用している。その条件として IMF はウクライナ政府に対し、財政・金融、為替、企業再編・私有化、汚職対策、年金制度改革、公的サービスなど、幅広い分野で構造改革を求めている。」[1]

IMF・世銀のショックドクトリン、コロナ、そしてプーチンによる侵略。ウクライナの医療労働者らの抵抗は今後も続くことが予想されます。連帯を。

以下、 «СПІЛЬНЕ» （スピリニェ common）の記事より。（稲）

---

[1] JETRO 地域分析レポート「ウクライナ － 構造改革によりさらなる経済回復を図る」2017 年 11 月 17 日, https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/2017/3f1018d4a9cf9880.html

医療運動「ニーナのように」――――

パンデミックと医療改革の中でいかにして看護師たちの運動は誕生したのか

2020 年 12 月３日　オレナ・トカリッチ

原文　https://commons.com.ua/uk/ruh-medsester-pid-chas-medreformy-i-pandemii/

ウクライナの医療制度が国内総生産に占める割合は ２ ～ 3% の間で変動している。これは世界保健機関（WHO）の要件と、GDP の少なくとも 5%をこの分野に割り当てることを義務付けているウクライナの法律の両方に矛盾している。残念なことに、ここ数十年で、そのような資金不足が常態化した。これは患者にとっては医療の質の低下を意味し、ほとんどの医療従事者にとっては薄給で不適切な環境で働くことを意味する。

医療改革が状況を悪化させた。その実施の過程で、期待されていた業界の資金調達の増加が起こらなかっただけでなく、ネットワークと医師の数はさらに減少した。同時に、削減とほぼ同時にパンデミックが始まった。このような背景に対して、ウクライナにとってまったく新しい現象、つまり看護師の草の根の運動**「ニーナのように」**が生まれました。

この運動のこと、それが生まれた状況、そしてなぜ医療改革がウクライナの医療問題をまだ解決していないのかについて、さらに探ってみよう。

横断幕には「このような労働環境ではコロナでさえ過労死する」（大意）

ウクライナの医師の収入

2020 年８月の控除後の医師の平均給与は 6,800 フリヴニャだった[2]。彼らが受け取る額が少ないのは、ケータリングと宿泊の分野だけである。

医師の給与にも男女差があり、男性の方が約 800 フリヴニャ多く受け取っている。そしてこれは、医療従事者のうち女性が占める割合が、世界では 70%で、ウクライナでは 82%にもかかわらずである。その理由は古典的なもので、女性はより低賃金の仕事を強いられることが多いから

---

[2] https://dcz.gov.ua/sites/default/files/infofiles/sytuaciya_na_rp_ta_diyalnist_dsz_0.pdf

だ。（以下不明）つまり、中堅および若手スタッフからは、146,000 人の看護師と 5,000 人の看護師（3%）が含まれます（Т а к, і з с е р е д н ь о г о т а м о л о д ш о г о п е р с о н а л у — 146 т и с я ч м е д с е с т е р т а 5 т и с я ч м е д б р а т і в (3%).）

確かに、医療改革の第 1 段階では、個々のセラピストと小児科医の給与は、控除前で 16～18,000 フリヴニャに増加した。しかし、医師総数のうち、その分野の医師数は 120 人中 24 人の 5 分の 1 にすぎない。それ以外の専門医の給与は据え置かれ、看護師や若手医療スタッフの給与は、法律で定められた最低額に達しないことさえある。というのも、公務員としての彼らの給与は、最低生活費に連動した料金体系に依存しているからである[3]。この数字は、2014 年以来、最低賃金の半分のままで、現在 2,118 フリヴニャである。

また、新型コロナウイルス感染症に対する割増が約束されているにも関わらず、平均給与が 2019 年とほぼ変わらず[4]、控除後も同じ 6,800 ドルだったことも注目に値する[5]。今年は医療改革により、5 万人の医師が解雇警告を受け、8 月の時点ですでに 4 万 3 千人が退職している[6]。したがって、医療分野の給与積立基金は大幅に削減されたと考えられる。さらに、その結果、医師は 5,500 万フリヴニャ以上の給与債務を負うことになった。

パンデミックの真っ只中: 給与、福利厚生、仕事、そして時には命も失われる

この予算政策は、直接的に医療スタッフの状況を悪化させ、権利侵害を助長する。

たとえば、リヴィウ近郊のマヘリヴ市では、地元の病院への支出が削減され、行政は大量削減を決定した。シングルマザーの看護師ナタリヤ・ユレンコワさんも解雇された数十人の中に含まれていた。未成年の子どもを一人で育てる女性の解雇は禁じられているため、彼女は法廷で違法な判決に異議を唱えることを決めた。彼女は訴訟に勝訴し、職場に復帰し、解雇されていた数か月分の補償金を受け取った。しかし、当局からの圧力により、ナタリアは仕事を辞め、その後すぐに心臓発作で入院した。彼女は高額な費用がかかる手術が必要である[7]。

Звільнення медсестри, яка є самотньою матірю

Протест через закриття тубдиспансеру у Львові

Протест співробітників київської клініки "Психіатрія" через урізання

Медики Кривого Рогу демонструють неякісні засоби захисту

左上から時計回りに

「解雇されたシングルマザーの看護師のナタリア」

「薬局の人員削減に抗議」

「精神科病棟の人員削減に抗議」

「クリヴィー・リフでは医療の質が低下」

[3] https://commons.com.ua/uk/reforma-prozhitkovogo-minimumu/
[4] http://www.ukrstat.gov.ua/express/expr2020/10/131.pdf
[5] https://dcz.gov.ua/sites/default/files/infofiles/nova_sytuaciya_na_rp_ta_diyalnist_dsz_2019.pdf
[6] https://dcz.gov.ua/sites/default/files/infofiles/sytuaciya_na_rp_ta_diyalnist_dsz_0.pdf
[7] https://www.facebook.com/permalink.php?story_fbid=342769587159208&id=100191088083727

全国の他の医療施設も、スタッフの削減、遅延、急激な給与カットに直面している。コロナのパンデミックが始まった４月上旬に、このプロセスは最も急速に加速した。政府は 300%の割り増し賃金を約束したが、その代わりに、とんでもない金額の予算削減が行われた[8]。削減が特に目立ったのは精神科と結核のサービスである[9]。その改革とは、一部の患者を開業医のいる外来治療に移行させることである。そのため、入院施設は廃止され、スタッフは解雇されている。キエフ最大の精神科病院であるキエフ精神科クリニック[10]と第２ジトミル地域精神科病院[11]の職員が街頭に立った。また、キエフ救急搬送[12]、キエフ救急病院[13]、キエフ診断センター[14]の医師も街頭に立った。リヴィウでは、歯科医[15]、救急隊員[16]、結核診療所の職員[17]が抗議を行った。スミ地方のフルヒフ市では、市立病院の院長がハンガーストライキを行った[18]。ドニプロ地域リハビリセンター[19]でもハンガーストライキが行われた。

慢性的な資金不足のため、ウクライナはパンデミックに対する準備ができていなかった。コロナ隔離の開始当初は、保護具の欠如、品質の低さ、機能的人工呼吸器の不足などについて、医師から多くの苦情が寄せられた。例えば、オデッサの医師が人工呼吸器の実数について語る動画がネット上で共有されたり、クリヴィイ・リフからは、市長の息子であるオレクサンドル・ヴィルクルが提供したマスクがいかに医師の耳を変形させるかを看護師が見せたりしている[20]。

しかし、現在、この国の状況は非常に危険なようだ。そのため、オデッサではボランティアたちが「黙示録の年代記」や地元の病院での大量の入院拒否について話している[21]。リヴィウでは、ある施設の所長が患者が自分で薬を購入する必要があると述べ[22]、キエフではソーシャルネットワークが病院の過密状況を示し、チェルニウツィでは看護師と患者の妻が自ら集中治療室まで患者を運んでいかなければならない様子を示した[23]。

こうした背景から、報酬や給与に関する約束の不履行は特に冷笑的に映る。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響下での就労に対する補助金はすべての人に支給されるわけではなく、非常に選択的であり、それは不条理の域に達している。例えば、ビラ・ツェールクヴァの「救急車」の医師は、搬送する患者を自分で捜索し、PCR 検査の写真を撮らなければならない。９月以降の賃金の「引き上げ」は、最低賃金の引き上げに過ぎないことが判明した。給与明細の写真が医師らによってソーシャルネットワーク上に大量に公開された。そして重要なことは、感染した医師、さらには遺族に対してさえ、補償金が支払われていないことだ。最も顕著な例は、コロナウイルスの蔓延と戦うキャンペーンの顔だったイワン・ヴェンジノヴィチのケースだ[24]。彼の死後に出た検査結果は陰性だったため、遺族への補償は依然としてあいまいなままだ。10 月末現在、140 人以上の死亡医師のうち補償金を受け取ったのはわずか 20 家族だった。死亡した医療従事者である夫と妻の 13 歳の息子には償金が２回支払われた。ベッド不足のため公立病院への入院を拒否されたオデサ地方の看護師の遺族は入院費用を工面するためにローンを組んだ

---

8 https://socportal.info/ua/news/zarplati-menshe-nizh-do-karantinu-mediki-obureni-neviplatoiu-obitcyanikh-300/
9 https://commons.com.ua/uk/reforma-ftiziatriyi-ochima-likarki/
10 https://socportal-info.translate.goog/ru/news/v-kieve-protestuiut-medrabotniki-bolnitcy-pavlova/
11 https://socportal.info/ua/news/u-zhitomirskii-oblasti-mediki-psikhiatrichnoi-likarni-perekrivali-trasu/
12 https://socportal.info/ua/news/u-kharkovi-mediki-viishli-na-protest-cherez-vidsutnist-zasobiv-zakhistu/
13 https://socportal.info/ua/news/mediki-kiivskoi-likarni-shvidkoi-dopomogi-viishli-na-protest/
14 https://socportal.info/ru/news/medikov-kotorye-boriutsya-s-covid-19-khotyat-osvobodit-ot-naloga-na-pribyl-eto-pribavit-zarplatam-18/
15 https://socportal.info/ru/news/v-lvove-protestovali-stomatologi-kotorym-platyat-zarplatu/
16 https://socportal.info/ua/news/u-lvovi-protestuvali-mediki-shvidkoi-dopomogi/
17 https://socportal.info/ru/news/vo-lvove-vrachi-vystupili-protiv-zakrytiya-tubdispansera/
18 https://socportal.info/ua/news/golovnii-likar-shche-odniei-likarni-ogolosiv-goloduvannya-u-nszu-obitcyaiut-vidiliti-koshti/
19 https://www.facebook.com/inessa.shevchenko.9/posts/1924405694351220
20 https://www.youtube.com/watch?v=Bks1N5wajnE
21 https://www.facebook.com/katherine.nozhevnikova/posts/5115845901819121
22 http://tvoemisto.tv/news/dyrektor_tsentru_legenevogo_zdorovya_zayavyv_shcho_vsi_medykamenty_patsiienty_kupuyut_sami_113414.html
23 https://www.pravda.com.ua/articles/2020/10/28/7271475/
24 https://www.bbc.com/ukrainian/features-54433814

が[25]、その補償金を受け取れるかどうかはまだわからない。医師たちはメディアへのコメントの中で、職場で感染症が発生した場合、責任は主任医師にあるため、できる限り穏便に済ませるようにしていると述べている[26]。

コロナで犠牲になったイワン・ヴェンジノヴィチの写真など

医師は自分たちの権利のためにどう戦うのか

2019 年末、来るべき改革への不満から「ニーナのようになろう」運動が起こった。キエフ州の看護師ニーナ・コズロフスカが「職業を変えたくはないが、給料は受け入れがたい」と語った動画をきっかけに、フラッシュモブが始まった。ウクライナ全土から集まった医師たちは、「#БудьЯкНина」（ニーナのように）というハッシュタグのもと、自らのストーリーを共有し、要求をまとめ始めた。隔離の前には、看護師の給与を 16,000 フリヴニャに、救急隊員の給与を 10,000 フリヴニャに、医師の給与を 27,000 フリヴニャに引き上げることを要求する行動が何度か行われた[27]。行政からの圧力や、コロナ流行の期間中に集会を開催できないことがあるにもかかわらず運動は継続している。運動支持者間の主な調整と情報交換は、６万人のフォロワーを持つフェイスブックのグループで行われている[28]。メンバーは、政府機関に質問を送ったり、正当な支払いを受けるためのアドバイスを提供しようとしたり、適格な法的支援を求めたりしている。2020 年 10 月 15 日、この運動は NGO「医療運動・ニーナのように」として正式に登録された。

看護師たちの抗議活動、2019 年 12 月。プラカードは「尊厳ある給与を」。写真: Serhiy Movchan、「政治批評」

---

[25] https://www.facebook.com/katherine.nozhevnikova/posts/5122377471165964
[26] https://lb.ua/society/2020/10/04/467376_za_tri_dobi_pomer_istoriya_ivana.html
[27] https://politkrytyka.org/2019/12/20/nastupnogo-razu-my-pryjdemo-zi-shprytsamy-i-klizmamy/
[28] https://www.facebook.com/groups/2486280374918717

クリヴィ・リフには戦闘的な労働組合の例もある。昨年、市は職員の一部を解雇することで、最大規模の病院の一つである第８病院を「合理化」しようとした。医師や地域住民はこれに反対し、病院は守られた[29]。パンデミックの初期には、多くの診療科が閉鎖され、職員は解雇された。労働組合は、市内の疫学的状況は長期にわたって安定していたため、解雇には客観的な理由がなかったと考えている。労働組合は、行政がこのようにして「合理化」を完了させるつもりだったと考えている。20 万人以上の大人と子どもに医療サービスを提供しているこの施設では、予定されていた外科手術が半年以上も行えなかったのである[30]。情報キャンペーンと絶え間ない呼びかけによって、病院は最終的に手術を再開することができた。

クリヴィ・リフ医師労働組合も医療改革の見直し[31]と医療への資金提供の拡大を主張している。GDP の少なくとも 7% を医療に割り当てることは「ニーナのように」運動でも要求されている。このスローガンのもとに行動を起こす準備ができた医師らの組合加入も増加している。

保健省のマクシム・ステパノフ長官は、すでに近い将来に給与が増加すると公に発表しているが、2021 年の予算案では、９月に発表されたもの[32]よりも 340 億フリヴル少ないものとなっている[33]。つまり、医療運動と労働組合は闘いによって、医療予算に影響を及ぼさなければならないのである。

このテキストはウクライナのローザルクセンブルグ財団のプロジェクト《Хто потурбується?》（誰がケアする？）の一環として執筆された。

[29] https://kr.informator.ua/2019/08/29/zhiteli-krivogo-roga-sobrali-1000-golosov-za-sohranenie-8-j-gorbolnitsy-a-mediki-napisali-obrashhenie-v-meriyu/
[30] https://socportal.info/ru/news/v-krivom-roge-polgoda-ne-rabotaet-khirurgicheskoe-otdelenie-krupneishei-bolnitcy/
[31] https://rev.org.ua/nezalezhna-profspilka-likariv-nadala-ocinku-medreformi/
[32] https://www.kmu.gov.ua/news/u-proekti-derzhbyudzhetu-2021-vidatki-na-medicinu-zrostut-do-42-vvp-roman-yermolichev
[33] https://life.pravda.com.ua/health/2020/11/18/243042/